

## 議 事 録

会議の名称	令和5年度第5回岩倉市行政評価委員会
開催日時	令和5年11月8日(水)午後2時から午後4時50分まで
開催場所	市役所7階 大会議室
出席者 (欠席委員・説明者)	出席委員：千頭委員(委員長)、小松委員(副委員長)、川中委員、 松浦委員、村上委員、三輪委員、水野委員、吉田委員 欠席委員：宇佐美委員、万年委員 施策担当課：竹井商工農政課長、夫馬商工観光グループ長、神山上 下水道課長、大徳下水道グループ長、大橋上水道グループ長、加藤 消防本部総務課長、伊藤予防グループ長、小川総務グループ長、西 村都市整備課長、田中維持管理課長、秋田秘書企画課長、宇佐見企 画政策グループ長、林広報広聴グループ長、小野秘書人事グループ 長、佐野行政課長 事務局：中村総務部長、秋田秘書企画課長、宇佐見企画政策グルー プ長、中山主任
会議の議題	(1) 第5次総合計画の進捗の評価について (2) その他
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他( )
会議に提出された資 料の名称	資料1：令和5年度行政評価委員会進行スケジュール(総合計画進 捗評価分) 資料2：【第5回行政評価委員会】行政改革行動計画との対応表 資料3：評価基準表 資料4：令和5年度岩倉市行政評価委員会行政評価結果報告書 (案) 資料5：令和5年度行政評価結果(令和4年度実施施策)(案) 参考：第5次岩倉市総合計画基本施策評価シート(令和4年度実施 施策)(今年度の評価対象となっていない14基本施策分)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	議事録作成者 中山

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

委員長からあいさつ

2 議事

（1）第5次総合計画の進捗の評価について

【基本施策20・基本成果指標・単位施策（1）】について施策担当課から説明

委員：単位施策の成果指標について、桜まつりありきで設定しているため、未開催の場合は必然的に評価が悪くなる。今後も開催が難しいということであれば、次回以降、例えば桜まつりとその他イベントを分けて成果指標とするなども検討してもいいと思う。また、提案であるが、まつりが開催できなくても、コロナ禍前のようにお祭り広場で市内の商店などが出店できる機会があるといいと思う。市内の商工業の発展や市外へのPRにもつながる。

施策担当課：桜まつりの開催の可否に関わらず、お祭り広場への市内事業者の出店については、検討していきたい。

委員：個別施策③「観光交流プログラムの充実」にて、観光振興会も関わりながら「冷やし」を切り口とした観光ツアーを実施したものの参加者は少なく、桜まつり以外の観光プログラム作りの難しさを感じた。結果が伴うプログラム作りには観光振興会だけでは限界があるので、例えば市民からアイデアを広く募集する等ができればいいと思う。

委員：市内の観光できる場所というのがあまりイメージできない。

委員長：「冷やし」の観光ツアーはどのようにPRしたのか。

施策担当課：愛知県がJR東海ツアーズのコンテンツとして実施していた「あいち冷やしの旅キャンペーン」と連携したもの。

委員長：岩倉市は外国人の方が多いのでうまく取り込めるとよいと思う。ベトナム語版のフェイスブック等、SNSで周知すればより集まるかもしれない。

委員：出身である名古屋のある大学の学生が主体となって、数年前から浴衣フェスというイベントを実施している。毎年参加者が増えており、今年は大学の周りの地域住民も巻き込んで実施していた。継続することで定着することもあり、そういうことをやれるといいなと思う。

委員長：市民の中で「岩倉市の観光」がイメージできていないという課題が明らかになったと言えるかもしれない。

委員：地元の人では身近過ぎて町の魅力に気づけないという側面もあるため、今はテレビの番組づくりにおいても外国人を入れたりもしているところ。魅力ある観光づくりのためには、外国人をどう取り入れて、どう意見を聞くのかという視点も大切だと思う。

委員長：では評価をしていきたい。挙手でお願いしたい。…C評価が7名、D評価が1名

委員長：挙げた意見を課題として申し添えながら、全体評価としてはC評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：C評価とする。

【基本施策 20・単位施策（2）】について施策担当課から説明

委員：大野市から岩倉市へ来た人はいるのか。

施策担当課：全数を把握するのは難しい。成果指標においてはバスでお越しいただくため、その数をカウントしている。

委員：過去、ふれ愛まつりでも大野市の物産の出店があったと思うが、去年や今年もあるのか。

施策担当課：去年も今年も出店している。

委員：出店があるということであれば交流になっていると思うので取組内容に含んでもいいと思う。

委員長：和泉村から大野市になったことによる岩倉市とのつながりの意識の違いはあるか。広がったことによる意識の薄れも懸念されるが、逆に大野市全体にPRできる機会でもあるため、そこがうまくいっているのかが気になった。

施策担当課：正確には不明。大野市は友好交流都市が3つ4つあり、多数のうちの1つとなったことによる薄まりはあるかもしれないが、桜まつりのバスツアー実施の際の大野市職員との会話の中では岩倉市の桜を楽しみにしている方も多く、毎回抽選になるということであるため、肌感覚では認知いただいていると感じている。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…C評価が1名、D評価が7名

委員長：桜まつりなど、大きなイベントに依存すると、そこに引っ張られて全体の評価が悪くなるが、その他の取り組みを鑑みてC評価とした。全体としてはD評価が多いのでD評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：D評価とする。

【基本施策 17・基本成果指標・単位施策（1）】について施策担当課から説明

委員：下水道の計画区域面積について、市全体の面積のうちどのぐらいの割合になるのか。

施策担当課：約6割。607ヘクタール。

委員：見直しの頻度はどのようか。

施策担当課：10年程前に国や県が令和8年度までに下水道を95%整備しようとした際に見直した。岩倉市は市街化区域と市街化調整区域が明確に分かれており、当初から人口が密集したエリアしか計画上位置付けていないため、その後、大きな見直し等を行っていない。

委員：管路耐震化率について100%となるまで、あと何年かかるのか。

施策担当課：予算の範囲内で工事を実施しており毎年2%程進捗している。近年、人件費や物価高騰の影響から工事の延伸が伸び悩んでおり、この状況が続けば進捗が遅れることもある。

委員：最近、水道管の漏水箇所特定の確率を高めるため調査に人工衛星を使用したという話を聞いた。岩倉市でも実施しているのか。

施策担当課：県内では豊田市が人工衛星を活用した調査を行っている。100メートル程度の精度と聞いており、山のある豊田市では有効と思うが、岩倉市は市街地が多いため精度面に疑問があるため、導入に至っていない。

委員：個別施策「①水資源の確保」の取組内容にて自己水源が3割とのことであるが、これは市内の井戸からの汲み上げによるものか。

施策担当課：岩倉市の水道事業が保有している井戸が11か所ある。そこから汲み上げて必要量をまかなっているエリアや、愛知県から購入した水を配っているエリア、またその2つを混ぜて配っているエリアがあり、全体として井戸汲み上げ分が約3割、愛知県からの購入分が約7割となっている。

委員長：取組内容の記載としては、過剰な汲み上げの抑制という視点で記載されているが、自己水源を3割も保有していることは素晴らしいと思うので、もっとポジティブな内容としてもいいと思う。

施策担当課：汲み上げ過ぎによる地盤沈下の問題から、近隣でも過剰汲み上げの防止を謳っている背景があり、このような書き方になっている。

副委員長：有収率とはどのような値か。

施策担当課：水を送った量に対して、実際にお金を収納することができた割合のこと。漏水の他、消火活動に係る水の使用は料金が発生しないため、有収率が下がる原因となる。

副委員長：現状の約93%というのは周辺市町と比べて高いのか、低いのか。

施策担当課：この場で正確な回答はできないが、90%を割っているところもあれば、95%程度のところもあり、県内では真ん中又は少し下程度の位置と思う。

副委員長：岐阜の方の市町では50%程度のところもあったと思う。漏水調査はマンパワーが必要であり、公共インフラは今後維持できなくなっていくため、長い目で見てどうなっていくのか気になり質問したもの。

委員長：水道料金収納率について、6か月間免除した分の調定額と収納額を減額するという処理ではなく、逆に期間中どちらも100%収納があったこととして加算することはできないのか。

施策担当課：企業会計上の計算方法だとこのようになる。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が8名

委員長：B評価とする。

#### 【基本施策17・単位施策(2)】について施策担当課から説明

委員：雨水調整池の整備目的はどのようなか。

施策担当課：汚水と雨水の処理が下水事業であり、この調整池は雨水処理のための施設。大雨の際一時的に水路の水を溜めておき、雨が治まってから用排水路に戻すことで市内の浸水を防ぐためのもの。市内に7施設整備する予定。

委員：大矢公園調整池工事の遅れの原因はどのようなか。

施策担当課：現場状況が工事発注時の想定と異なっていたところがあったため。なお、4月の後半から10月ぐらいまでの出水期は水路に水が多くなり工事ができないことから工期が1年延びる。

委員：延びた工期に伴う追加の費用負担はあるのか。

施策担当課：延びた分の現場管理費が発生する。ただし、全ての工事の工程が止まる訳ではないため、できるところから取り掛かっている。

委員：単位施策の成果指標「下水道整備計画に基づく雨水調整池整備進捗率」について評価【I】の理由はどのようなか。評価基準表上では【III】と思われる。

施策担当課：大矢公園調整池工事の完了をもって令和7年度の目標値である44.1%を満たすこととなり、工事の進捗状況からそこまでには完成する見込みであることから【I】評価としたもの。

委員：下水道の接続促進について実際に接続に繋がる割合が低い、どこの地域でもこのような状況であるのか。

施策担当課：正確な割合は不明であるが、勉強会の場等での聞き取りから、下水道の接続促進については、どの市町も苦勞している印象がある。接続が進まない理由としては、資金がないなど。生活の利便性を高める目的で整備している下水道であることから、接続により生活が苦しくなるとは元も子もないため、お願いをするに止まっている状況。元々下水道に繋がなければならないという認識の無い方もいる。制度上は3年以内の接続が必要であるが、岩倉市では1年を目安としており、下水道が使えるようになってから1年程度経過したところで接続促進を行っている。

委員長：単位施策の成果指標「水洗化率」を算出するため分母となる供用開始区域内人口について、人口減の影響を勘案しているか。

施策担当課：供用開始区域内人口の減少具合が分からないため反映できていない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が7名、C評価が1名

委員：単位施策の成果指標「下水道整備計画に基づく雨水調整池整備進捗率」について評価基準表上は【III】であるため、C評価とした。

委員長：全体としてはB評価が多数であるため、B評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：B評価とする。

【基本施策25・単位施策(3)個別施策①】について施策担当課から説明

委員：市の管轄ではないかもしれないが、五条川の浚渫工事は実施しているか。

施策担当課：県の管轄となるが、現在までに実施されていない。今後、待合橋までの河川整備が終わった時点で下流側から実施したいという話を聞いている。

委員長：では既評価済の個別施策「②農業用施設の維持管理・改良等の推進」と併せて基本施策25・単位施策「(3)浸水対策」の充実の評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が7名、C評価が1名

委員：先ほどの基本施策 17・基本成果指標・単位施策（2）と同様の理由からC評価とした。

委員長：全体としてはB評価が多数であるため、B評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：B評価とする。

【基本施策 26・基本成果指標・単位施策（1）】について施策担当課から説明

委員：簡易耐震化を行った防火水槽に見つかった不具合とはどのようなものか。

施策担当課：防火水槽簡易耐震化とは水槽内部に樹脂性シートを貼り付けることにより、老朽化や地震等により水槽の躯体にひび割れ等が生じた場合においても漏水を防止できる構造とするものであるが、水槽はコンクリートであるため、樹脂性シートとの接合部の密閉度が低く、水槽とシートの間雨水が入り込んだことで、シートが浮いた状態となってしまったもの。接合部より下部に排水溝を設けることで、接合部まで水が行かないよう対応したため、今のところ問題はない。

委員：消防団について現在の定員と、所属人数は何名か。

施策担当課：令和4年度について、定員100名に対し、所属が88名。うち災害に出ない機能別団員は5名。令和5年度は所属93名のうち機能別団員が10名。

委員：新規団員の募集方法はどのようなか。

施策担当課：広報紙での呼びかけや各区長からの推薦。

委員長：市内の大手の企業の方に昼間の団員を担っていただくなどの検討はしているか。

施策担当課：検討はしているが、実際の依頼には至っていない。

委員長：機能別団員についてホース等を使った訓練は実施するのか。

施策担当課：実施しない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…C評価が8名

委員長：C評価とする。

【基本施策 26・単位施策（2）】について施策担当課から説明

委員：予防査察により確知した重大な法令違反とはどのようなものか。

施策担当課：法令により設置が義務付けられている建物で、スプリンクラー、自動火災報知設備、屋内消火栓設備が全く設置されていない、または設置されている設備の機能に著しい欠陥がある場合のこと。

委員長：単位施策「火災予防の充実」の中に火災の発生状況の記載が無いことが気になる。

施策担当課：火災件数として毎年10件程度で推移している。人口1万人あたりの火災発生件数の県内比較でも岩倉市は少ない方に位置している。原因は市民の皆さんの防火意識の高さだと考えている。

委員：予防査察の対象となる建物は新築、既設どちらか。

施策担当課：既設の建物が対象。令和2年度については新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予防査察の実施を福祉関係施設等を除き自粛したため、実施件数が減少した。

委員長：少年消防クラブとはどのようなものか。

施策担当課：少年消防クラブは火災予防及び消防に関する知識を深め、防火防災思想の普及を図ることを目的として活動するクラブで、令和4年度までは市内の全小学6年生をクラブ員とするものであったが、令和5年度から希望者をクラブ員とするよう運営の見直しを行った。定員は30名で、現在は24名が所属している。

委員：名称に少女を加えるなど、名称変更の検討はしたのか。

施策担当課：全国的にも同じ名称。タイミングを見て変更してもいいかもしれない。

施策担当課：少年法の中では、男子、女子共に少年として整理されている。

委員長：良い提案であり、岩倉市が全国に先駆けて変更を検討してもいいと思う。コメント記載することとする。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…A評価が2名、B評価が6名

委員2名：取組が充実しているためA評価とした。

委員長：今の意見を聞いてA評価に変更するという委員はいないことから、B評価多数であるため、全体としてB評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：B評価とする。なお、評価と併せて担当課による予防査察の頑張りを称えるコメントを記載することとする。

**【基本施策26・単位施策(3)】**について施策担当課から説明

委員：AEDについては受講しても内容を忘れてしまい有事の際に不安があるため、定期的実施するなど訓練の機会を増やして欲しい。

委員長：救急救命士の数は足りているのか。

施策担当課：消防職員56名中、救急救命士有資格者は21名。うち、実際に現場活動する運用救急救命士は19名。救急車1台あたり救急救命士2名の搭乗を目指して養成しているが、まだ満たしてはいない。近隣では運転手含めて救急車1台あたり救急救命士3名としているところもあり、最終的にはそこを目指したいと考えている。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が8名

委員長：B評価とする。

**【基本施策14・基本成果指標・単位施策(1)】**について施策担当課から説明

委員：昔、名鉄バスの路線を野寄・北島方面に伸ばすという話を聞いたがどうなっているのか。

施策担当課：毎年要望しているが、名鉄バス単独では厳しく、公費負担をして欲しい旨の回答をいただいているところ。

委員：コミュニティバスについては検討しているか。

施策担当課：コミュニティバスは運用コストが高く、また、市民ニーズとして、様々な目的地への乗降希望があることから、現在は個人個人のニーズに合わせた運用のできる、ふれ愛タクシーを導入している。

委員：近所の高齢の方から日常的な買い物に困っているという話を聞く。ふれ愛タクシーは日常的には使いづらいので、路線を工夫するなど、コストのかからない方法を検討してコミュニティバスを導入いただきたい。

委員：基本成果指標「安全で快適に移動できる道路環境が整っていると思う市民の割合」について、実績値が令和元年度より10%減少した理由について分析しているか。

施策担当課：指標とするアンケート調査については、実施の都度、無作為抽出をするため、毎回対象者は異なる。

施策担当課：都市計画道路については日々整備されているため、今回の評価は市民が日常的に利用する道路が評価対象となったものとする。現在、全国的には自転車道を整備していこうという動きがあるものの、岩倉市ではまだ進んでいなかったりするため、他市町と比較し、そういったところが評価されたものと考えている。

委員長：道路環境における「安全」と「快適」は必ずしも一致しない。また、道路環境の捉え方は車の運転者、自転車の運転者、歩いている人など立場によっても異なるため、立場を分けて分析できるようなアンケートの仕様であれば、議論ができると思う。

副委員長：無作為抽出にてアンケートを送付しても、実際に対象者本人が回答しているかわからないところもある。高齢の方に配布したものでも、若い家族の方が代わりに回答することも考えられる。回答者に偏りが出て、例えば歩行者目線の方の割合が多くなるなどで、評価が厳しくなることもあると思う。

委員長：岩倉市独自の地域交通会議はあるのか。

施策担当課：あるが、コミュニティバスの導入の可能性等は議論されていない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手でお願いしたい。…C評価が8名

委員長：C評価とする。

#### 【基本施策14・単位施策(2)】について施策担当課から説明

委員長：「安全で快適な道路環境の整備・維持管理」という単位施策で、成果指標が都市計画道路の整備率だけでいいのか疑問。例えば歩道の設置率や対応が必要な交差点のうち対応ができた箇所数など、他のものが必要な気がする。

委員：スマートインターチェンジについては整備により交通量が増え、むしろ安全性が損なわれる恐れがあるので、この単位施策への記載はそぐわないのではないか。

委員：スマートインターチェンジの優先検討箇所とした尾張一宮PAは一宮ICに近いが、こういった位置関係のところは他にもあるのか。

施策担当課：尾張一宮PAと一宮ICは約1.8km。今年度、スマートインターチェンジ設置の準備段階調査に採択されたのは7か所。うち桑名市にある大山田PAは桑名ICから1.4kmの距離となっている。

委員：一宮も小牧も交通量が多いインターチェンジであるため、その分の利便性は良くなると思うが、利用としては川井・野寄工業団地等の企業が大型トラック等で利用するケースが多くなると思われる。一宮市側としても、北側の農地エリアに企業を誘致したい思惑



があると思うと、スマートインターチェンジを整備することによる市民への影響はあまりないのかなと思う。

副委員長：個別施策「②道路・橋梁の計画的な維持管理の推進」について、取組内容及び成果の中で、「維持管理を実施した」や、「維持管理を行うことができた」との記載があるが、この「できた」というのは、必要な全ての維持管理について、十分な対応ができたということか。対応が必要なものに対して、どのぐらいできているのかが知りたい。

施策担当課：舗装でいうと、市内全ての道路の計画を作り、維持管理を実施している訳ではなく、交通量の多いところを選び、そのうち痛みがひどいところから優先順位をつけ、予算の範囲内で対応している。現時点で必要な維持管理に対する対応割合等は把握していないが、計画に沿って対応しているものの、必要分全てには対応できていない。

副委員長：ということは、都市計画道路以外にも、安全でない道路はあるということか。単位施策の題である「安全で快適な道路環境の整備・維持管理」実現のためには、こういうところも重要であり、単位施策の成果指標が「都市計画道路の整備率」のみであることに違和感があり、質問したもの。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が8名

委員長：B評価とする。

【基本施策30・基本成果指標・単位施策（1）】について施策担当課から説明

委員：単位施策の成果指標「市ホームページを利用している市民の割合」について、令和7年度の目標値を既に10%以上超えている状況を鑑みると、目標値が低いように思われるが、目標値は見直しされるのか。

事務局：総合計画について、中間年で見直しを行うため、この指標を含めすでに目標値を超えている成果指標など、その際に全体的に見直す予定。

委員：広報紙について、例えばインターネット上での閲覧を勘案するなどして発行部数を減らしていくなどの対応は検討しているか。

施策担当課：現在、発行部数としては22,900部程度。世帯数の増加とともに少しずつ増えている状況。全戸配布としているため、減らす予定はない。

委員：新聞などの発行部数が減少している状況もあるので、例えば転居者などにアンケートを実施し、不要と回答した世帯には配布しないなど、発行経費の削減を考えてもいいと思う。

委員長：現在の配布方法はどのようなか。

施策担当課：委託業者による戸別配布。

委員長：公共の立場として読んでもらえなくても届けるという考え方もあって、不要な世帯だから届けなくてもよいという判断は難しいところ。

副委員長：雑談であるが、現在の情報取得の主要媒体であるスマートフォンは、パソコンよりも双方向のやりとりがしやすいものであるため、うまく活用できれば逆に市民から情報提供してもらうなど、情報発信のやり方が変わってくるのではないかと思う。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…A評価2名、B評価が6名

委員：広報紙の利用率が減っていくのは避けようがないことだと思い、その他が充実していることからA評価とした。

委員長：LINE含めてSNSの活用ができているため、A評価とした。

委員長：B評価が多数であるため全体としてB評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：B評価とする。

**【基本施策 30・単位施策（2）】**について施策担当課から説明

委員：単位施策の成果指標「広聴活動に参加した市民の数」の令和4年度実績634人中、タウンミーティングの参加者は何名か。

施策担当課：昨年度未実施のため人数にはカウントされていない。今年度は実施予定であり、3度の開催を予定している。

委員：市民の声、私の提案とはどのような内容の意見があるのか。

施策担当課：職員の接遇をはじめ、生活に関する苦情（道路、騒音、雑草）など多種多様。

委員：市民の声と私の提案、どちらも同じ投稿フォームから投稿するのか。

施策担当課：タイトルとして「市民の声、私の提案」で1つであり、1つのフォームから投稿する。

委員：私の提案について、提案が出た時にその他の市民が提案に賛同できるようにできればいいと思う。そういう機能を検討してみてもどうか。例えば「いいね」ボタンのようなもの。

事務局：機能的に難しいと思う。

施策担当課：いただいた意見について、個人情報が含まれていないなど公開できるものは公開しているが、賛同機能はない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が2名、C評価が6名

委員：LINEアンケートがよいと思いB評価とした。

副委員長：C評価とするのは忍びないなと思いB評価とした。

委員長：C評価多数であるため全体としてはC評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：C評価とする。

**【基本施策 30・単位施策（3）】**について施策担当課から説明

委員長：市民アンケート、市民意向調査結果はオープンデータ化しているか。

施策担当課：していない。

委員長：豊田市が実施していたと思う。

委員：職員の個人情報研修の受講率はどのようか。

施策担当課：100%。今年度からこれまで対象としていなかった会計年度任用職員についても受講対象としている。

委員：情報公開の進捗状況について、他市町と比べてどのようか。

施策担当課：文書目録、要綱等をホームページ上で公表した。他市町との比較はしていないが、進んでいないということはないと思う。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…A評価2名、B評価が6名

委員長、委員：情報公開に係る取組や、オープンデータ公開件数も目標に近づいているなど、十分取組がされていると思いA評価とした。

委員長：B評価多数であるため全体としてはB評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：B評価とする。

※次単位施策からは第1・2回行政評価委員会において進捗評価を行った行政改革行動計画と内容が重複する施策となるため、担当課長説明を省略し、基本施策評価シート及び資料2を元に質疑・審議及び評価を実施

【基本施策32・基本成果指標・単位施策(1)・(2)】

※行政改革行動計画取組項目「13 組織・機構の再編」、「14 定員管理と適切な人員配置」、「15 年次有給休暇の取得促進」、「16 時間外勤務の縮減」、「17 人材育成基本方針の推進」、「18 人事評価制度の適切な運用」、「19 職員研修の充実」と重複

副委員長：将来的に職員の数をどうしていくのか、市としての方針を伺いたい。

施策担当課：現在の定員は400名弱。今後定年の引き上げにより419名ほどまで増加するものの、これが収束すれば落ち着いてくる。

施策担当課：以前のように何が何でも減らすという方向性ではなく、適正な数を採用したいと考えている。

委員長：行政改革行動計画の進捗評価においては、時間外勤務が多い特定の部署があったが、それ以外はおおむねA評価としているところ。

委員長：では単位施策「(1) 弾力的な組織体制の構築」について評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…A評価1名、B評価が7名

委員長：単位施策の成果指標「市民が利用しやすい組織だと思える市民の割合」が高いのが素晴らしいと思いA評価とした。B評価多数であるため、全体としてはB評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：B評価とする。

委員長：続いて単位施策「(2) 職員の能力開発」について評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…A評価が8名

委員長：A評価とする。

【基本施策31・基本成果指標・単位施策(1)・(2)】

※行政改革行動計画取組項目「1 多様な視点からの民間活力の導入」、「2 業務システムの最適化」、「4 オンライン手続の拡充」、「5 事務の共同化・多様な連携の推進」と重複

副委員長：単位施策の成果指標「基本計画目標数値達成率」について、現状4割程度であるが、仮にコロナ禍の影響を差し引いた場合、進捗として現在どのような状況か。

事務局：特に大きな課題や、遅れがあるような事業はなく、イベント等、コロナ禍の影響を差し引けば比較的順調に進んでいるものと考えている。

委員長：令和5年度は、未達成となっている残りの60%の目標について、定性的でもいいので達成できそうか否かを各課で確認してもらうようなことを実施してもいいかもしれない。新たな政策提案にもつながると思う。

委員：施策のPDCAサイクルのうち、「A」について、どのように実施されているのかが気になる。本委員会の場合でも、委員の方々から施策に対する提案が挙がることがあるが、担当課に伝わっているのか。

施策担当課：基本施策評価シートへ反映後、担当課へフィードバックすることに加え、庁内評価の事務局ヒアリングの際に、前回シートに記載した意見に係る施策の取組状況について確認するなど、内部チェックを行っている。

委員長：大事な指摘であると思う。可能であれば基本施策評価シート「市民評価 判断理由・コメント」については、毎年ものを積み重ねながら担当課からの返答と併せて表記し、年ごとの変化を見える化できるとよい。実際にそのような自治体もある。一度検討してみるといいと思う。

委員長：ではまず単位施策「(1) 計画的な行政運営の推進」について評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が3名、C評価が5名

委員：コロナ禍の影響を差し引いた際には順調に推移している点を評価しB評価とした。

副委員長：C評価では「順調とまでは言えず…」となり、そこまではない。やるべきことはやっただいていると思いB評価とした。

委員長：本委員会も2年目となり、これまで順調に評価をできていることからB評価とした。意見を聞いて評価を変更する委員はいるか。

委員長：評価を変更する者はいないため、C評価多数として全体としてC評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：C評価とする。

委員長：続いて単位施策「(2) 効率的で満足度の高い行政サービスの推進」について評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が8名

委員長：B評価とする。

#### 【基本施策31・単位施策(3)・(4)】

※行政改革行動計画取組項目「6 公共施設の適切な配置」、「7 市税等の収納率の向上」、「8 使用料、手数料の適正化」、「9 ふるさといわくら応援寄附金による財源額保」、「10 多様な財源確保」、「11 財政健全化への取組」、「12 財政状況の公表」と重複

委員：行政改革行動計画の進捗評価の際にも提案したかもしれないが、単位施策(3)の東小学校の市民開放について、市民の声も取り入れて検討して欲しい。また、希望の家が無くなると、これまでの青少年の野外活動等をできる場所がなくなってしまうため、可能であれば東小学校の市民開放にて代替できるよう検討して欲しい。

副委員長：単位施策（３）の成果指標「公共建築物の延床面積」について、増加分は誤差範囲で、いくらでも有り得ることからこの評価は少し厳しいと思う。一部の整備により一時増えても総合的に減らせられればいい。一時的な僅かな増加を気にし始めるような風潮が少し心配。

委員長：まず単位施策「（３）公共施設等の総合的かつ計画的な管理」について評価をしていきたい。前回は行財政改革という視点で評価をしたが、今回は市の施策としてどう順調に進んでいるかという視点での評価となり、若干見方が異なる。では挙手をお願いしたい。…C評価7名、D評価が1名

委員長：C評価多数であるため、全体としてC評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：C評価とする。

委員長：続いて単位施策「（４）安定した財政運営」について評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が1名、C評価が7名

副委員長：例えば市税等の収納率について、現状高い水準のものからさらに高い水準を目指していくことは非常に骨の折れる作業となる。その他は順調に推移していると思われるためB評価とした。未納者を肯定するものではないが、僅かな収納率上昇のために税込以上の経費負担が発生するとなると、元も子もないと思うので、費用対効果を考えながら可能な範囲で取り組めばよいと思う。

委員長：C評価多数であるため、全体としてC評価としてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：C評価とする。

## （２）その他

資料4について事務局から説明。

委員長：一つは基本施策シート「市民評価」及び「判断理由・コメント」に今挙げた意見の反映後、委員に共有し一度確認いただくというプロセスを踏みたい。また、もう一つは行政評価委員会行政評価結果報告書について、委員会としての意見を特記事項として入れられればよいと思う。例えば委員会の進め方についてなど、次回以降特に留意すべき点等あれば伺いたい。

委員：事前に実施施策に係る資料の配布があるとはいえ、限られた時間の中で細かな文章を読んで理解することが難しく、やっつけ仕事になってしまっているところがある。正確な評価のため、場合によっては、前年度評価した実際の事業の見学や、画面で事業を見せてもらうなど、理解しやすくなるような改善が必要と思う。

委員長：例えば現在2年で1周りの評価としているものを3年で1周りとするなど1年あたりの評価対象施策数を減らしたり、年度あたりの委員会の開催数を増やしたりするなどが考えられる。指摘のとおり、やっつけ仕事では意味がないので、何らかの対応を検討したい。今の意見について次年度以降の留意点として行政評価委員会行政評価結果報告書に

付け加えられたらいいと思う。事務局や副委員長と相談しながら、案を作成し、基本施策評価シートと併せて委員に確認をとることとしてよろしいか。

委員一同：了。

委員長：また、質疑の際に事業に係るデータについて伺ったものは、次回以降、基本施策評価シート内に表記できれば、質問が無くなり時間の短縮に繋がる。事実関係の確認よりは評価に時間を使いたい。